

訪問看護ステーション 連絡協議会だより

20周年記念特別号(第32号)

発行年月 2016年9月
 発行所 一般社団法人岡山県訪問看護
 ステーション連絡協議会
 ☎700-0805 岡山市北区兵団4-39
 岡山県看護研修センター3階
 TEL 086-238-6688・FAX 086-238-6681
<http://okayama.houmonkango.net/>
 E-mail okayama@space.ocn.ne.jp
 発行責任者 石本 傳江



成熟した新たな歩みに向けて

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会

会長 石本 傳江

平成8年にスタートいたしました私共の岡山県訪問看護ステーション連絡協議会が今年20

周年を迎えることが出来ました。6月25日の記念式典には多くのご来賓の皆様にご臨席賜り、感謝状贈呈・功労者表彰を行い、記念講演と共に盛大に終了することが出来ました。ご協力いただきました皆様へこころより、厚く御礼申し上げます。

この20年間の歩みは、健康保険法の改正により、看護職が管理者として認定される画期的な訪問看護の制度をどのように確立し発展させていくか、色々な課題が山積する中で先駆者の皆様にはご苦勞の多い道程だったと思います。

岡山県をはじめ各市町村行政の皆様方から多大なるご支援をいただき、更には岡山県ならびに市医師会の先生方の一方ならぬご指導ご支援がございました。

そして第2代会長の若林敏子先生には、看護協会長とのご併任の時期を通して11年間にわたり、変わらぬ熱意で組織的取り組みの指揮をして頂き、当時の協議会理事の皆様方と共に活動の基盤を確立して頂きました。

そして、訪問看護ステーションを立ち上げられ、数々の困難を乗り越えられながら、運営管理に最初の

段階から取り組まれ、長年にわたってご努力ご指導をいただいた永年勤続の方々のご功勞を称えたく存じます。

さて、社会は超高齢社会を迎えて、急速に地域包括ケアへのニーズが高まってきました。地域におけるケアの中心は訪問看護にあると言われており、医療と生活の両面のニーズに応えることができ、さらには人生の最終段階を最善の状況を目指して支援できるのも看護職との期待が高まっております。

3年前に一般社団法人を取得した協議会には、社会的活動であるとともに、専門職組織として社会から信任される団体として、自律性と成熟が求められます。

私たち訪問看護師は小規模で、大きな力は持ち合わせていませんが、積み重ねた努力の20年があります。日米通算安打の新記録を打ち立てたイチロー選手の言葉には、『大きな成功は小さな努力の積み重ねである』という謙虚な、しかし心に響く言葉がありました。これまでの誠実な取り組みに誇りを持って、今後へ大きく羽ばたいていきましょう。

皆様のさらなるご支援・ご協力をお願いするとともに、本協議会の今後の発展を祈念し、記念誌発行のご挨拶といたします。最後になりましたが、20周年事業担当委員の皆様へ感謝申し上げます。





祝 辞

岡山県知事
伊原本 隆 太

一般社団法人岡山県訪問看護ステーション連絡協議会が発足し、20周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

一般社団法人岡山県訪問看護ステーション連絡協議会におかれましては、地域の実情に即した訪問看護の在り方の研究や看護職員の知識・技能の向上など、訪問看護ステーションがその機能を十分発揮できるよう看護の質の向上に努められており、在宅ケアの推進への多大な貢献に対して、心から敬意を表する次第です。

さて、岡山県では、すべての県民が明るい笑顔で暮らす「生き活き岡山」の実現を県政の基本目標とした「晴れの国おかやま生き活きプラン」の重点戦略の一つに「安心して豊かさが実感できる地域の創造」

を掲げ、健康で生きる喜びを感じられ、住み慣れた地域で自立して暮らせる社会の実現を目指しています。

急速な高齢化の進展により、日常生活に必要な買い物や食事の支度などができない高齢者世帯などが増えていくと考えられており、「住み慣れた我が家で、最期の時まで自分らしく暮らし続けたい」という願いを実現するためには、医療、介護、介護予防、住まい、生活支援などのサービスが切れ目なく提供される地域包括ケアシステムの構築が必要となります。

とりわけ、重度の要介護者の増加が見込まれる中、居宅を訪問し、できるだけ居宅で能力に応じた日常生活を営めるように療養生活を支援する訪問看護の重要性はますます高まっています。

県といたしましては、引き続き貴会と連携し、在宅医療を支える訪問看護の普及、推進を図りながら、地域包括ケアシステムの構築を進めてまいりますので、一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴会のますますの発展と、会員の皆さまのご健勝、ご活躍をお祈り申し上げ、お祝いのごあいさつとさせていただきます。



祝 辞

岡山県保健福祉部長
荒 木 裕 人

一般社団法人岡山県訪問看護ステーション連絡協議会が発足20周年を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。

貴会におかれましては、訪問看護コールセンターの運営や、訪問看護職員の確保のための研修会をはじめ多くの事業に取り組まれるとともに、県内の訪問看護ステーションの良き相談役、アドバイザーとして、多大な成果をあげていただいております、厚くお礼申し上げます。

県では、現在、平成27年度から平成29年度までを計画期間とする第6期岡山県高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画に基づき、市町村と連携しながら介護保険制度の推進に取り組んでいます。

この計画は、地域包括ケアシステムの構築と、認

知症施策の推進を基本理念とし、高齢者が可能な限り住み慣れた地域でその有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう、医療、介護、介護予防、住まい、生活支援が包括的に確保され、認知症になっても、本人の尊厳が重視され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられる社会の実現を目指しています。

地域包括ケアシステムの主要な柱となる在宅医療においては、かかりつけ医による診療と訪問看護が中心的な役割を担っています。ことに、訪問看護は、居宅を訪問しての慢性疾患の管理から急変時の対応や看取りまで、住み慣れた場所でケアを行うことから、その必要性、重要性はますます高まっています。引き続き、地域包括ケアシステムの構築に向け、貴会並びに会員ステーションの一層のお取り組み、ご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、貴会の益々の発展、会員の皆さまのご健勝とご活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞

岡山市長
大 森 雅 夫

「一般社団法人岡山県訪問看護ステーション連絡協議会」が発立20周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴協議会におかれましては、平成8年の創設以来、「県民の社会的ニーズに応じて、住み慣れた地域においてその人らしい尊厳のある在宅の療養生活が送れるように支援する」という理念のもと、在宅ケアの最前線で日夜奮闘され、訪問看護の質の向上に多大なご貢献をいただいておりますことに、改めて深く敬意を表しますとともに、平素から賜っております岡山市の保健福祉行政へのご理解とご協力に対し、心から感謝申し上げます次第です。

さて、岡山市では、既に市民の4人に1人が高齢者という「超高齢社会」を迎えており、高齢になっ

ても住み慣れた地域で安心して暮らし続けたいという市民の希望に応えるため、豊富な医療・介護資源をいかした切れ目のないサービスの提供、在宅医療・介護の推進、生涯現役社会づくり並びに市民の健康寿命の延伸などに力を注いでおります。

こうした取組を実りあるものとするためには、地域医療の要である訪問看護ステーションのお力が欠かせないものと考えており、現在も、皆様方のご協力をいただきながら、「訪問看護プチ体験研修事業」や「退院支援看護師研修」を通じた人材育成、医療機関と在宅スタッフの連携強化などに取り組んでいるところです。

皆様方には、栄えある創立20周年を契機とされ、今後とも、市民の皆様が安心して住み続けられる地域社会の実現に向けて、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、貴協議会のさらなるご発展並びに関係の皆様方のますますのご健勝とご活躍を祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。



祝 辞

岡山県医師会会長
石 川 紘

この度、岡山県訪問看護ステーション連絡協議会が発立20周年をお迎えになり、同時に記念誌を編纂されますことに衷心よりお慶び申し上げます。又、これまで訪問看護事業の発展及び同協会の発展にご尽力頂いた多くの関係者の皆様にあらためて敬意を表します。

今や国が強力に進めている地域在宅医療ケアシステムの確立における訪問看護は、制度を支える中核サービスであることは申すまでもありません。私の所属する倉敷市においては平成4年に倉敷市保健医療センター事業の一環として、倉敷訪問看護サービスセンターが設置されましたが、当時はまだ利用者が少なく、これより数年前に設置された休日夜間急患センター事業の陰に隠れて細々と運営されておりました。そこで平成8年の岡山県訪問看護ステーション連絡協議会の設立に際してはいち早く参加したようです。

さて私事になりますが、私自身、後期高齢者となり、いわゆる「介護適齢期」の仲間入りをしました。処で2000年（平成12年）に発足した介護保険制度であります。両親が1998、99年に相次いで心筋梗塞で急死し、介護どころか医療保険も殆ど受ける必要もなく他界しました。又、4人兄妹も82歳を先頭に74歳まで皆健在で、尚且つ、家内の両親も比較的若くして他界し、これまた80歳を先頭とした4人兄妹ですが、全て健在です。

と云うことで今の処、医療介護に殆ど関わることなく、せつせと医療介護保険料を払うだけの幸せな一族と云えます。おまけに私の本業が産婦人科ときておりますから、在宅ケアには程遠い専門分野にあり、このため医師会会務においても介護保険分野においてはいつも後手々に廻っており、焦りを感じ続けております。唯、介護認定審査会には高齢のため委員長を拝命し、汗を掻いている始末です。

祝辞があらぬ方向に往ってしまいましたが、兎に角、訪問看護の需要は認知症看護介護も重要課題となり、益々需要が増加の一途を辿って参ります。貴協議会が、そうした訪問看護ステーション活動が充分に出来ますよう、環境づくりに更に貢献下さいますよう願致しております。



20周年記念誌に 寄せて

岡山県訪問看護ステーション
連絡協議会 2代目会長
若林 敏子

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会創設20周年を心からお喜び申し上げます。

前回の10周年誌発刊から10年が過ぎ、20周年という節目に記念誌を発刊されますことは誠に意義深く更なる発展を期して心からお祝い申し上げます。

当協議会、初代会長高田 都氏より二代目会長として平成12年に引き継がれ、平成22年までの10年間の務めさせていただきました。

平成4年に訪問看護制度が設置され、また、平成8年には、岡山県訪問看護ステーション連絡協議会と改名発展し、訪問看護の充実を目指して活動を行ってきました。しかし、訪問看護制度スタートから、8年が経過した平成12年には介護保険制度の導入によって、訪問看護が組み入れられて訪問看護制度も定着したように思われましたがしかし、その認知度は低く、地域住民はもとより一般社会においても理解が低かった。そうした状況の中、まず訪問看護制度や訪問看護に関する内容等について浸透させるためのパンフ

レットや広報だよりの発行、ホームページの開設など広報活動に力を注ぎました。一方、会員の地区活動や訪問看護を通して地域での問題や課題を集積し、委員会で検討を行いその結果を行政や関係団体へ提言し住民のニーズに応えるよう努めた。また、介護保険制度の導入によって、在宅ケア、在宅医療に欠かせない訪問看護ステーションとなりました。

その年には訪問看護ステーションが122か所に増加し、訪問看護の時代に突入した。認知度も次第に高まり需要も増えはじめた。しかし、その一方で市町村からの補助金の減額と停止があり、運営面での予算縮小で苦勞もありました。そうした中で市町村や公的機関への補助金の申請依頼に奔走し資金獲得に力を注いだ。

それから10年、岡山県訪問看護ステーション連絡協議会は20周年を迎えられました。少子高齢化が進み、保健医療福祉を取り巻く環境も変化する中、訪問看護に対する理解とともに認知度も高まり、質の高い看護の提供と、会員の皆様方のこれまでの活動実績を高く評価され、協議会の発展充実は、法人化の認可が示す通りであります。

今後、超高齢化の進行に伴って、医療費、介護費抑制政策の中で「施設から地域・在宅へ」との動きもあり、在宅ケア、訪問看護の機能強化が期待されるでしょう。しかも安心安全の訪問看護を通し、地域住民のための活動が看護職の地位の向上、社会的認知を高める方向にあると思います。連絡協議会の今後一層のご発展とご活躍を心より祈念しお祝いの言葉といたします。



20周年によせて

岡山県訪問看護ステーション
連絡協議会 3代目会長
山 谷 富美枝

このたび岡山県訪問看護ステーション連絡協議会が20周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。その歴史の一端に加えていただきましたことを大変幸せに感じております。

振り返りますと、平成2年に東京で開催された「第1回開業看護師養成講習会」を受講したことがご縁で、平成3年12月に高田会長から訪問看護事業検討会メンバーにと声をかけていただきました。その1年後に「岡山ケアステーション看護協会（現岡山訪問看護ステーション看護協会）」がスタートしたことを懐かしく思い出しました。先を見通した事業に取り組まれた初代会長からバトンを受けられた若林会長が、多くの業績を残されました。

私は、自分の身の丈の認知不足に加え、しばらく岡

山から離れていたこともあり、現状把握が不十分なまま看護協会会長と協議会会長を引き受けることになりました。私の協議会デビューは、平成22年7月6日に開催された「県在宅医療推進のための訪問看護活性化懇談会」でした。県行政担当者、医師会の方々からの力強く、温かいご支援があり協議会事務局に間借りをしてコールセンターが開設。相談件数が思うように伸びない時期も、19時から開催される訪問看護活性化委員会の場で励まされたり、慰められたり…。

徳永相談員を中心に事務局職員たちの地道な努力で、次第にコールセンターも周知されるにいたしました。1期2年間で、少しでも人と人が繋がることに役立つであろうかと思うばかりです。

医療・介護の連携、地域包括ケアシステムの運用の声が高まっていますが、臨床にいて感じることは、まず私たち（看護職）の連携を今まで以上に密にしておくことの必要性です。そして他職種を理解を深め、私たちが一歩踏み出してこそ真の連携が生まれるのだと思うのです。

地域的に人材確保や経営困難などの課題もありますが、貴会が県下の訪問看護ステーションの核として、ますます発展されることを心よりお祈り申し上げます。

20周年 記念講演 訪問看護師&在宅ホスピスにとってのケアの基本

野の花診療所 徳永 進

講演会でお話しした中で、次の二つのことだけを取り出して記しておきます。

- ① 在宅緩和ケアの作法
 - #1. 身体をつかむ
 - #2. ケア広げる
 - #3. 道具を揃える
 - #4. 心を見る
 - #5. 家族の森に入る
 - #6. 引き受ける患者と家族（P/F）を
 - #7. 日々刻々についてく



- ② #6. 引き受ける患者（P）と家族（F）を
 - 一番大切な局面 —

包括ケアシステムということが大きく言われていますが、システムとしては大切ですが大切なことは形骸ではなく中身、内容です。

最も大切な仕事を受け負い日々実践しているのは看護です。

訪問看護師の人間性、技術力、家族とのかかわり、患者さんの心に邪魔にならず入っていけるか、患者さんや家族に、訪問を待ってもらえる人になれるかどうか、一番大切なところで。

日本の訪問看護、在宅ホスピスの大きな別れ道です。予想してなかった展開が生まれていく不思議さ、尊さが、看

護の臨床にはありますよ。

とりあえず次のことを記しておきます。

1. この決心が生まれるかどうかで道は分かれる
2. すぐにその気持ちが湧かなくても、あの手この手でその境地に達する努力をする
3. 信頼関係の道が生まれると、緩和ケアの過程は新しい出来事、心理をP/Fに生む。ケアが目指しているのは、ただ、このこと。このことのために#1～#4のことごとが必要となる。
4. 職務、役割り、パート的としてしか関われないこともあるが、大切なことは本気であるのかどうか。同じ生命体として、そのことを維持するのに大切なのは休息、息抜き、旅、忘れることなど、でもある。



徳永 進先生の記念講演を受講して

Report 1

訪問看護ステーション紙ふうせん
玉置 君江

講演、ありがとうございました。先生の講演の中で、いくつか私のアンテナに触れた言葉がありました。

1. イソギンチャクびらびら
 - …感性のアンテナに触れ、きゅっとそれを掴む。
2. バイタルサインは呼吸が大切
 - …クスマウル呼吸に注意
3. 看護ケアで手が主役。手は心。…心のケア
4. 家族は森（ジャングル）
 - …ジェノグラム（家族図）をコツコツ書く
5. 日々刻々…時間は相手に合わせる。そうして、死までの刻々の時間についていく。

看護ケアが人の心を動かす！と私も常に思っています。五感をフルに使い、話を聞きながら、必要なケアを職人技で一つ一つ行う事で、心が動きます。相手から頼ってくれるようになります。看護って看護師って、凄いです。看護を医師である先生から改めて言語化して頂き感謝です。

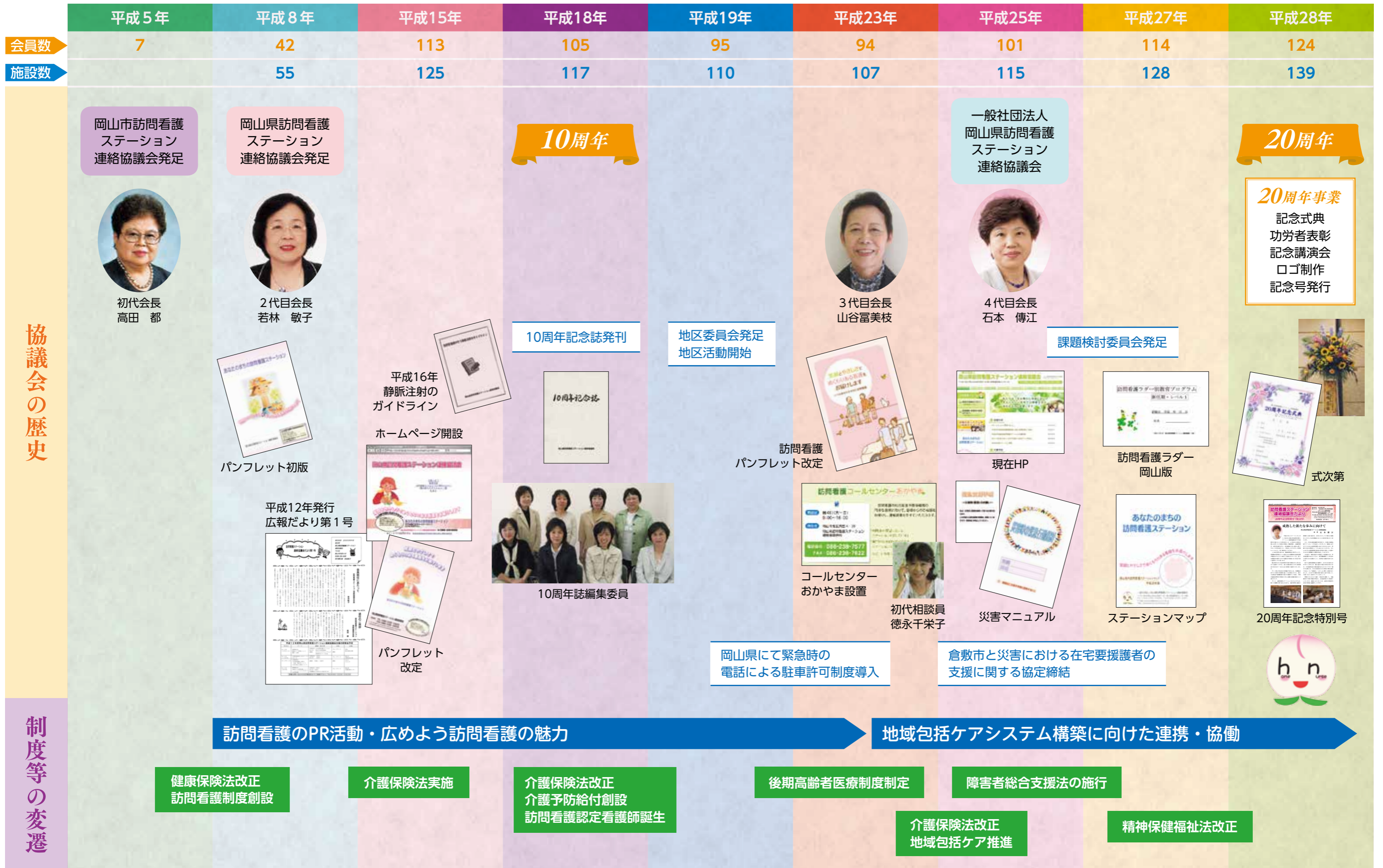
Report 2

訪問看護ステーションまいんど
都築 昌恵

20周年記念講演「訪問看護師&在宅ホスピスのケアの基本」と題して、野の花診療所の徳永 進先生の講演を聞く事が出来ました。ユーモアたっぷりの内容で、話しが徐々に進んで行き、会場が何回も笑い声に包まれる中、聞き逃さない様に付いていくのが大変でした。「在宅緩和ケアの作法」の7項目に沿って、たくさん事例を交えながら教えていただきました。

「普遍的な死が訪れる流れの中、全力で力を注ぐ」「決められたベルトコンベアに乗らない手作りの看取り」「在宅はケアの宝庫」「こまごまとした工夫をする」等のポイントを語られました。先生の言葉を書き留めていくうちに、日々実践している看護を振り返ることができ、元気をもらう事が出来ました。よりいっそう訪問看護の力を信じて、頑張っていきたいと改めて思いました。

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会の20年のあゆみ



訪問看護のPR活動・広めよう訪問看護の魅力

地域包括ケアシステム構築に向けた連携・協働

健康保険法改正
訪問看護制度創設

介護保険法実施

介護保険法改正
介護予防給付創設
訪問看護認定看護師誕生

後期高齢者医療制度制定

障害者総合支援法の施行

介護保険法改正
地域包括ケア推進

精神保健福祉法改正



地区活動の紹介

岡山A地区 ●南区・玉野

- 訪問看護ステーションマッコ
- 訪問看護ステーションほほえみ
- 訪問看護リハビリステーションしん
- 訪問看護ステーションほのか
- 岡山赤十字玉野訪問看護ステーション
- 訪問看護事業所フェニックス
- メイリッチ訪問看護ステーション
- アーク訪問看護ステーション新保店
- 岡山しげい訪問看護ステーション
- あいの里訪問看護ステーション
- 訪問看護ステーション絆
- ココファンナーシング岡山
- こうなん訪問看護ステーション
- アミューズ富永訪問看護ステーション岡山南
- 訪問看護ステーションちやいむ
- 訪問看護ステーションまいんど
- ゆめの里訪問看護ステーション

岡山A地区は、岡山市南区と玉野市に位置するステーション（6月現在17ヶ所）を指しています。締切堤防をはさんで児島湖が広がり、南にはサウスビレッジ・深山公園などの観光地も点在しています。

玉野では以前から、施設内外のネットワーク作りの一環として「玉野・灘崎訪問看護の会」を年2回程度開催。勉強会を継続して情報交換を図っており、地区活動として取り組んでいます。又訪問看護を広く理解していただけるように、「出前講座」のような形で取り組んでいけたら、と考えているところです。ステーション間が協力し合い、看護の力がますます発揮できればと願っています。



深山公園



サウスビレッジ

岡山B地区 ●中区・東区

- 岡山訪問看護ステーション看護協会
- さいわい訪問看護ステーション
- みさお山訪問看護ステーション
- 恵風会訪問看護ステーションくにとみ
- 訪問看護ステーションサマリア
- 訪問看護ステーションシエル
- 訪問看護ステーション華心
- 訪問看護ステーションさくらんぼ
- 訪問看護ステーションたんぽぽ
- あーくす岡山訪問看護ステーション
- あさかわ訪問看護ステーション
- 古都の森訪問看護ステーション
- 訪問看護ステーションキャスト
- 創心会訪問看護リハビリステーション岡山
- 西大寺訪問看護サービスセンター
- アップルウッド訪問看護ステーション

現在、岡山B地区17ステーションで市街地からのどかな田園の広がる地域で訪問看護活動をしています。

季節の花々や風を感じながら利用者ご家族が、我が家で生活することを楽めるように支援しています。

時には日々の業務の中で利用者につらい思いをさせてしまいふがいな自分に悩むこともあります。

利用者の「またきてね」「待っていた」との笑顔と暖かい言葉に支えられ看護活動をしています。

勉強会・情報交換やカフェとして友好を深める活動をとおして、同じ地区で訪問看護をしているメンバーが自分らしくやりがいを持って訪問活動が出来るように訪問看護の輪を広げたいと思います。



夢二郷土美術館



西大寺会陽 (はだか祭り)

東備地区 ●備前市・赤磐市・和気町・瀬戸内市

- 訪問看護ステーションさくら木
- 訪問看護ステーションあかいわ
- 赤磐市訪問看護ステーションベル
- えがお訪問看護ステーションわけ
- 備前市訪問看護ステーション
- わかくさ訪問看護ステーション
- 邑久訪問看護ステーション



閑谷学校



牛窓ヨットハーバー

東備地区は、備前市・赤磐市・和気町・瀬戸内市からなり、7か所のステーションが活動しています。各市ごとに、市のつどいや研修会、ケアカフェ、ワールドカフェ、在宅医療・福祉・保健連携推進協議会委員等に積極的に参加し、東備地区として7ヶ所のステーションが集まった時には、情報交換を行い、運営に対する不安や相談などを話し合い、お互い切磋琢磨しながら日々活動をしています。現在は、管理者だけではなく全スタッフでの研修にも力を入れています。必要としている研修内容を検討し、ステーション全体の質の向上を図り、利用者や家族の方、地域の方へと還元できるように取り組んでいます。



高梁新見地区 ●高梁市・新見市

- 訪問看護ステーションくろかみ
- 阿新虹の訪問看護ステーション
- 高梁市川上訪問看護ステーション
- 高梁医師会立訪問看護ステーションやまびこ



新見市

高梁新見地区はわずか4ステーションが加盟している地区ですが、まさに「わきあいあい」、会えば互いに情報交換し、困ったことも相談し合える関係ができています。

そして過疎が進んだ広大な中山間地域を事業範囲とし、日々がんばっている地区でもあります。

昨年より、岡山大学医師を講師とし、急変時の対応を学ぶ研修を始めました。

何も無いところで、いかに早く異常を発見・対応して、的確に主治医に状態報告するか、引き続き学びたいと思います。



備中松山城

井笠地区

●井原市・笠岡市・浅口市

- 井原医師会訪問看護ステーション
- 訪問看護ステーションくじば
- 訪問看護ステーション瀬戸いこい苑
- さつきの里訪問看護ステーション

笠岡市・井原市・浅口市・矢掛町・里庄町と3市2町からなる井笠地区です。人口151,279人、高齢化率34.4%で、現在は笠岡市2、井原市1、浅口市1の4ステーションで訪問させていただいております。小規模から中規模のステーションです。それぞれに忙しくしており、情報交換もままならない状況です。地域の皆様の高齢化は、

前述のとおりですが、医師会の先生方の高齢化・訪問看護ステーションスタッフの高齢化も深刻になってまいりました。

その中でも、地域の皆様に喜んでいただけるようなサービスを提供しようという情熱だけは、色あせず頑張っております。



カブトガニ博物館



鏡獅子

でんちゅうくん

岡山C地区 ●北区

- 岡山市久米南町組合立訪問看護ステーション
- みつ訪問看護ステーション看護協会
- マスカット訪問看護ステーション
- ホームナーシング月夜
- 訪問看護ステーション旭川荘
- あしもり訪問看護ステーション
- グッドドライブ指定訪問看護ステーション
- スマイル津高訪問看護ステーション
- オリーブ訪問看護ステーション
- きらめき訪問看護ステーション
- 訪問看護ステーション岡山リハ・ケアステーション
- 岡山済生会訪問看護ステーション
- 訪問看護ステーション大輪
- アイリーフ訪問看護ステーション西口
- ナーシングアイル
- 訪問看護ステーションラポール
- 訪問看護ステーション晴
- 岡山市医師会訪問看護ステーション
- 訪問看護ステーション紙ふうせん

- 敬友会訪問看護ステーション
- 訪問看護ステーションエール
- 訪問看護ココロステーションミモ
- エムエム訪問看護ステーション
- ニチイケアセンター岡山南訪問看護ステーション
- あさがお訪問看護ステーション

岡山市C地区は、岡山県庁や岡山市役所が所在する行政の中心地であり、また丘陵部では白桃やマスカットなど果物の栽培が盛んな市街地と自然豊かな里山が隣接する地域です。

また、県内の3次救急の拠点病院を多く持つエリアとしても特筆すべき点です。医療に大変恵まれた地域で、どんどん新たな訪問看護ステーションが開設されておりそれぞれの医療機関の更なる密な連携が今後の課題であり要となっていると思います。



岡山後楽園



白桃・マスカット

真庭地区 ●真庭市

真庭市訪問看護ステーション
訪問看護ステーションわたぼうし
訪問看護ステーションゆうあい
おちあい訪問看護ステーション
みどり訪問看護ステーション



醍醐桜



真庭市は岡山県北部に位置し、自然豊かで総面積は岡山県の11.6%を占める県下で最も大きな自治体です。

人口減も進み高齢化率34%の地域で5ヶ所の訪問看護ステーションを有しています。多職種連携に重きを置き研修会参加、ステーション交流し顔が見える関係作りと協力し合いながら在宅を支えています。

地区活動の紹介



勝英津山地区 ●津山市・勝央町・美作市・鏡野町

訪問看護ステーションあおぞら
かも訪問看護ステーション
訪問看護ステーションあゆみ
津山第一病院訪問看護ステーション
訪問看護ステーションひまわり
訪問看護ステーションレモン
訪問看護ステーションなかしま
津山中央訪問看護ステーション
訪問看護ステーションこだま
そよかぜ訪問看護ステーション
さとう記念病院訪問看護ステーション
訪問看護ステーション田尻

我が地区は、鏡野町(1)津山市(11)勝央町(1)美作市(2)の15ステーションを持ち、うち13ステーションが連絡協議会に加入しています。

津山盆地を中心に四方を山に囲まれ、広範囲の田園山間部を巡っています。地区活動ではステーション交流会を年に1~2回もち、ステーション同士のつながりを大切にしています。参加率もよく、互いに顔の見える関係ができています。管理者の集いも1~2回あり、管理者の悩みや運営などの相談もできています。



鶴山公園



ノースビレッジ

倉敷総社地区 ●倉敷市・総社市

訪問看護ステーションあんど
よつ葉訪問看護ステーション
訪問看護ステーションサクラ
訪問看護ステーションみのり倉敷
ハイセイ訪問看護ステーション
天和会訪問看護ステーション
倉敷中央訪問看護ステーション
倉敷しげい訪問看護ステーション
訪問看護ステーションぶどうの家天使のおくりものP.A.C訪問看護ステーション
倉敷記念訪問看護ステーション
亀籠園訪問看護ステーション
創心会訪問看護リハビリステーション
ニチケアセンター大高訪問看護ステーション
倉敷訪問看護サービスセンター
訪問看護ステーションみこと
富田訪問看護ステーション
玉島訪問看護サービスセンター
訪問看護ステーション青空
訪問看護ステーションてまり
玉島虹の訪問看護ステーション
訪問看護ステーションかえで

水島虹の訪問看護ステーション
水島訪問看護ステーション
和香会訪問看護ステーション
王慈園訪問看護ステーション
訪問看護ステーション向日葵
訪問看護ステーション児島
児島訪問看護サービスセンター
いずみ訪問看護ステーション
仁徳会訪問看護ステーションのぞみ
ながの訪問看護ステーション
すばる訪問看護ステーション
訪問看護ステーションママック総社



備中国分寺

倉敷総社地区は新設の訪問看護ステーションが増え、現在34ステーションとなりました。支部のスローガンとして①訪問看護事業所間の連携を図り、課題等を一緒に考えていきたいと思います。②多職種連携をより一層図り、訪問看護を広めましょう。③災害対策の取り組みを積極的に進めましょう等を定め研修会や情報交換を行っています。



倉敷美観地区



功労賞受賞者



理事会推薦

功労内容

当会役員を歴任するなど、多年にわたり当会の発展に貢献

受賞者名	略 歴 (於:当会)
若林 敏子	会 長 10年 理 事 1年
山谷富美枝	会 長 2年
重平 典子	副 会 長 16年 監 事 4年
草野 功	副 会 長 13年 顧 問 6年
則清 操	副 会 長 6年 研 修 委 員 1年
小谷 秀成	副 会 長 4年 顧 問 13年
桑田 彩子	副 会 長 4年 監 事 6年
福岡 英明	副 会 長 4年 理 事 2年
江澤 和彦	副 会 長 2年 理 事 13年
谷村 怜子	副 会 長 2年 理 事 5年 監 事 4年 研 修 委 員 3年

※役職および従事年数順

計10名

事業所推薦

功労内容

20年以上訪問看護に従事し、在宅看護の発展に貢献
10年以上同一の訪問看護ステーション管理者に従事し、在宅看護の発展に貢献

受賞者名	所 属
大島 育美	児島訪問看護サービスセンター
古村 隆枝	倉敷訪問看護サービスセンター
守谷 美穂	玉島訪問看護サービスセンター
江南 文子	玉島訪問看護サービスセンター
正木 敦子	倉敷訪問看護サービスセンター
室山 尚美	倉敷訪問看護サービスセンター
三宅 純子	高梁市川上訪問看護ステーション成羽事業所
玉谷 弘美	訪問看護ステーション絆
井上うき子	あいの里訪問看護ステーション
玉置 君江	訪問看護ステーション紙ふうせん
柚木加苗子	児島訪問看護サービスセンター
都築 昌恵	訪問看護ステーションまいんど
近土 善子	訪問看護ステーションまいんど
菅崎 仁美	岡山訪問看護ステーション看護協会
伊藤 幸子	倉敷訪問看護サービスセンター
樋口 妙子	倉敷中央訪問看護ステーション
香々美 緑	玉島訪問看護サービスセンター
上原 恭子	ゆめの里訪問看護ステーション
藤井 智子	訪問看護ステーションくじば
森重 良子	ゆめの里訪問看護ステーション
薬師寺三佳	仁徳会訪問看護ステーションのぞみ
新田 栄子	訪問看護ステーションこだま
江田 純子	みつ訪問看護ステーション看護協会
國近 桂子	訪問看護ステーション旭川荘
仕田原明珠	訪問看護ステーションくじば
小林 香里	訪問看護ステーションかえで
谷口 勝江	訪問看護ステーションサマリア

※訪問看護従事年数順

計27名

代表者挨拶

功労賞授賞式を終えて



児島訪問看護サービスセンター
大島 育美

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会が20周年を迎え、その栄えある会で、功労賞を頂きました。自分にとっては思いがけない名誉

であり、本当にありがとうございました。今後一層、在宅の患者様、その御家族様への支援を精一杯努めてまいりたいと思います。また、私が長きにわたり訪問看護に携わることが出来たのも、周囲の皆様の支えがあったからです。大変、感謝しております。

功労賞謝辞



訪問看護ステーションくじば
藤井 智子

この度は、功労者表彰を受けましたこと、感謝の気持ちで一杯です。

式典では、訪問看護養成講習に参加した同志と再会し、あの頃の懐かしい思い出話をしながら、時の流れの速さを感じました。

長期療養のALSの方、悪性腫瘍で若くして亡くなられた方、100歳まで一人暮らしにこだわった方等、忘れられない皆様との関わりの中で、私自身が大きく成長させて頂いたと感じています。

訪問中、指導、助言する事もありますが、私自身が、ご家族やご本人から教わる事、感銘を受ける事も多く、今も学びの場となっています。

この表彰に恥じぬように、今後も訪問看護活動に精進していきたいと思っています。

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会ロゴ決定

命名 モモッコナース



命名者

さとう記念病院
訪問看護ステーション
岡本 洋美



応募総数 6件

20周年記念事業特別委員会 → 会長副会長会 → 理事会 にて決定

提案者 事務局 亀川 展子

訪問看護ステーションの皆様には、日々ご迷惑をおかけしております。事務局に居座りあつという間に12年目となりました。感謝の意を含め、このたびの記念事業のロゴを応募したところ、採用となり心よりうれしく思います。

岡山の特産物であるももの形。「笑顔とやさしさでぬくもりのある看護」ということで、訪問看護「home nurse」を目と頬に見立て、笑顔を作りました。当初のピンクより色合いを変更していただいたことで、より優しいイメージとなりました。

20周年の記念事業にこのような形で参加させていただけたことに感謝申し上げます。



応募総数 25件

管理者投票 (投票数 71) にて決定

投票結果

1. モモッコナース 16票

- 2. ほうももちゃん 12票
- 3. スマイルもも子 7票
- 4. もも看 (ももか) 6票

ロゴマークおよび名前募集に対し、多数ご応募いただき、ありがとうございました。

20周年記念事業特別委員会委員



三木 成美 三村 希代子 都築 昌恵 横田 由紀子 亀竹 みどり
 玉谷 弘美 重平 典子 仕田原 明珠 篠原 淑子

お祝いを賜り

ありがとうございました。



ご芳名 (五十音順)

- 東洋羽毛中四国販売株式会社
岡山営業所 様
- 野の花診療所 徳永 進 様

広告協賛企業 (五十音順)

- 公益社団法人 岡山県看護協会
- 一般社団法人 岡山県薬剤師会
- 山陽事務機株式会社
- 医療法人 つばさ
- 東洋羽毛中四国販売株式会社 岡山営業所
- 医療法人 ときわ会 藤井クリニック
- 中村建設株式会社
- 西尾総合印刷株式会社
- 学校法人 ベル学園 岡山医療福祉専門学校

編集後記

この度20周年を祝して多くの参加者のもと記念事業を開催することができ、ここに20年の歩みを記念誌として発刊することができたことを事業委員一同大変嬉しく思っています。

記念講演会のアクシデントは思いもよらぬものでしたが、徳永先生の「訪問看護師へのエール」は心温まり、パワーにつな

がるものでした。

またここから新たな1歩を踏み出し着実に道を作り、足跡を残して歴史を積み上げていきましょう。

最後になりましたが、お忙しい中ご祝辞をくださいました諸先生方、関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、今後のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

20周年記念事業委員一同